

米価下落対策に、融資と 10万円〜1000円を支援

新型コロナウイルス感染症対策 主食用米生産緊急支援事業

○事業内容
 交付対象者 令和3年産の「生産の目安」に協力した農業者
 交付金額 交付単価 1,000円/10a（×6,700ha 67,000千円） ※つや姫・酒造好適米除く主食用米面積
 事務手数料 @500円/人（×2,600人 1,300千円） ※認定方針作成者に交付
 交付総額 68,300千円
 ○財源 一般財源 68,300千円

山形県災害・経営安定対策資金利子補給（令和3年の米価下落対策緊急資金）

○貸付対象者 米の生産者で、令和3年産米の「生産の目安」に協力している者
 ○資金使途 農業経営の維持安定のために必要な運転資金
 ○貸付限度額 次の①又は②のいずれか少ない額
 ①貸付対象者が生産している米の出荷量×1,900円/60kg
 ②500万円
 ○償還期限 1年以内（据置期間なし）
 ○貸付期間 令和3年10月8日～令和4年3月31日
 ○融資枠 75,000千円（県全体では500,000千円）
 ○貸付利率 0.75% 融資機関の利子負担により実質貸付利率を無利子又は低利子化（基準金利1.50%、うち0.75%を県が0.49875%、市が0.25125%で負担し、残り0.75%は融資機関で引下げ）

コロナ禍により、令和3年産米の概算金が大幅に下落した対策として、鶴岡市は「主食用米生産緊急支援事業」を立ち上げます。

水稲種子購入代金の3分の1相当額を補助することで、営農の継続を支援し、米産地としての生産基盤の維持を図る、としています。

交付単価は10万円あたり1000円で、つや姫・酒造好適米を除く主食用米面積6700haを想定しています。

さらに農業者の経営の維持安定に必要な資金の融資に対し、県と協調して利子補給をし、金融機関の利子負担で実質無利子か低利子を実現します（上表参照）。

藤島地区の薬木園整備

藤島地区の薬木園内（藤浪1丁目）にある草木塔周辺が整備され、11月3日に祭事が行われました。

草木園は、藤島町山野草愛好会（工藤正喜会長）が1997（平成9）年開園し、約70種類の薬木が植えられています。



藤沢周平を読む⑮

鈴木重雄（八色木）

姉

■春秋山伏記

藤沢周平の小説は、映画やTVドラマ化されたものが数多くある。私の見た映画でも「蝉しぐれ」を筆頭に、「山桜」、「たそがれ清兵衛」（祝い人助八）と「竹光始末」の合作である。まず「春秋山伏記」を読む。

羽黒山から正式の許可をもらった山伏大驚坊が、村に住み着いた偽の山伏、月心坊を追い出したことから始まる。

村人のおとしが子どもを連れて畑仕事をしている間に、子どもが崖を滑って落ちた。身を投げ出して子ども腕をつかみ直し、泣きわめいている片方の手をつかんだのが精一杯だった。

その姿勢で子どもを引き上げようとする、3つの子どもでも、石のように重かった。「だれか助けてくれちゃー」

さんざん呼んだが、誰も昼上がりで来なかった。

そのとき不意に頭の上で声がした。「よし離すなよ。いま助けてやっさげ」

おとしの横に、白い大きなものが同じように腹はった。

白装束の大男が、軽々と子どもを引き上げるのを、おとしは地面に腹ばいのまま、首をねぢむけて茫然と見上げた。

「危ねえだったの、

白衣の肩から結袈裟をかけ、頭を白布の宝冠で覆った大男は、つぶれた濁み声でそう言う。子どもを抱いたまま、おとしの腕を掴まえて立たせようとした。

おとしはその腕にすがって立とうとしたが、足の力を失って立てなかつた。

「助けられました。おんぎよう（行者）さま」と、おとしは涙をふき、漸く言った。手を合わせて大男を拝んだが、それでも足りないくらい相手がありがたく思われた。

「もう少しい、この子の命なぐすどこでした」

「おんぎようでは無い」と大男はおとしの言葉を訂正した。

「俺は羽黒からきた山伏だ」

畑仕事は残っているが、おとしは今日の畑仕事を休んだ。

おとしの頭の中にはまだ青い渦巻きが浮かんで消え、浮かんで消える。

ふだん見ている川をこんなに怖いと思ったのは初めてだった。

私はこの項を書くにあたり、王祇橋から、即身仏が安置されている東岩本の本明寺まで赤川左岸を散策した。

左岸の堤防は車が通れるが、対岸は畑や草原で、源流のまま瀬となり淵となつて、春秋山伏記を想像する絶景である。

梅本幸仙画「雪の朝」によせて

第50回記念日本水墨画展

雪の朝

梅本幸仙



た。

理由は簡単、信州大学に入ると父親に小屋の仕事を手伝わせられるので、A大学の鉱山学部に進学したのだそうである。

鉱山学部なので山にはめっぽう詳しく、山形の山々も歩き廻り、梅本さんが描かれた銀山温泉にも幾度か泊まったことがあるという。山小屋の主人はどだい自然大好き人間、コンクリートの温泉宿より、大正ロマンに包まれた銀山温泉は山形でも忘れられない場所であるようだ。

梅本さんのこの水彩画を、山本さんに送ってやったら大層喜ばれるだろうなーと思いつながら、テクテク歩いた「中央分水嶺トレイル」を思い起こしている。(新町・斎藤記)

ひと

茨木のり子⑧(終)

高村光太郎の激しさに共感

青山 崇

■「智恵子と生きた」
—高村光太郎の生涯—
「涯」を読む—



光太郎の第一詩集『道程』の冒頭、「僕の前に道は出来ない、僕の後ろに道は出来る」の9行詩は高校の教科書に載っていたので知っている人もいると思う。

1914年は、長沼智恵子とふたりが知りあつて3年目で結婚し

たことなり、光太郎の五臓六腑からひきずりだしたうた、自分の内部の地下水から汲みあげたうた、心理の波動をなまなましく伝えたい、詩の歴史上まったく新しい意義をもつた詩集でした。

『智恵子と生きた』高村光太郎の生涯』の初版は1967年である。

茨木の詩魂・詩作は、はじめて以来遅くとも十数年で完成されていたことになる。

しかし、妻・智恵子



1回戦の成果

これは川柳のつもりなんだが、「腕組めば甘利も落とす 力出る」

▲事件が起きた。これまでなかつた自民党の現幹事長が落選したんだ。現と元大臣も結構落ちたんだが、これがこの前行われた総選挙の実態だったでしょ。

▲こうなつたのは、共産党が呼びかけて出来た野党候補の一本化の力なんだ。こんな結果が怖かつたんだよ・彼らは。だから、あくだ・こくだ・野合だ・などと口を挟んできたんだぜ。併せて、いつも出るのが共産党攻撃だ。

▲弁護士なんて〜のが言うから本当らしく聞こえるがサ。実は彼・共産党の綱領を読んでいなかった事が判明。彼は、恥を掻き掻き不明を謝まつたんだ。共産党は暴力を肯定したことは無いんだ。民

は1932年、睡眠薬で自殺未遂から、結局精神分裂症になった。その中でも絵の才能を発揮し多くの切紙絵をつくつたが、1938年秋に亡くなる。

折り折りに書き留めてあつた智恵子がかもつともきらめいた時の詩、散文を集めた『智恵子抄』として1941年出版。ベストセラーとなつた。茨木の多くの詩・エッセイ・論文などがあつるが、一幕はこのへんで降ろしていただいて後日あらためて書かせていただく。

主的な選挙で、国民と共に世の中を変えていくのだと綱領には書いてあるんだから。

▲最悪の暴力は戦争でしよ。戦争に反対して獄に繋がれ、命を落としたのが共産党員だった。その時代、親兄弟・親戚までも特高に追い回された。だから当時は、人殺しをしてもいいが共産党には入るな・と親から言われたものだと年配の共産党員の話。そして敗戦。

▲誰でも思う戦争反対を言わせなかつたのが今の与党の昔でしょ。彼らにはその反省が無いんだぜ。だから防衛費と言う軍事費は増える一方で、戦争の危険が近く感ずる此頃だ。気が付きたい。反共は戦争の前触れだから。

▲予想以上の議席を買つて憲法改正は声高だ。これを止められるのが候補者の統一なんだ。また一回戦なんだよ。頑張ろつぜ。(石川)